

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0171401300		
法人名	有限会社 ハマダコーポレーション		
事業所名	グループホーム おもひで		
所在地	〒041-0835 函館市東山3丁目2番4号 (電話) 0138-32-5595		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月12日	評価確定日	平成22年4月13日

【情報提供票より】(平成22年1月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年10月11日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000円	その他の経費(月額)	23,600~28,600円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350円	昼食 500円
	夕食	550円	おやつ 100円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要(平成22年1月29日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.5歳	最低	77歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅原内科クリニック・富田病院・川岸皮膚科・高野外科肛門科胃腸科他
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、閑静な住宅地に立地しており、総檜造りの純和風住宅を改築し、インテリアに欄間を使い昔懐かしい雰囲気を残している。居室や居間からは、大きな庭石や石灯籠を配置し、沢山のツツジが植えられた日本庭園が見える。運営推進会議や消防訓練などを通じて、町内会や地域住民と交流を深めている。管理者と職員は、利用者一人ひとりのその人らしい暮らしを支えるため、専門性を活かしたチームケアに取り組んでいる。また、馴染みながらのサービスの利用についても取り組んでおり、体験利用の実現に向けて努力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で改善課題となった栄養摂取については、往診時に医師が献立をチェックし、利用者の健康状態や嚥下機能低下などに適切に対応するための指導を受け、改善に取り組んでいる。</p>
	<p>評価の意義や目的を理解し、職員全員で取り組み、日ごろのケアを振り返る機会として捉え、サービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月毎に開催し、行政担当者、利用者、自治会、家族などが参加している。会議では、事業所の評価の取り組み状況や評価結果を報告し、参加者は要望や意見などを出している。課題については、全職員で話し合い改善に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所の内外に苦情申し立て窓口を設置しているが、現在までに苦情はない。また、家族が来訪時に気軽に話せるように雰囲気づくりに配慮している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>夏祭りやチャリティーコンサートなど町内会行事には積極的に参加し、ボランティアや専門学校の実習生も受け入れるなど、地域との交流を図っている。また、散歩の時など、近所の住民に積極的に挨拶をしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人の人格を尊重することを柱に置き、家庭的な雰囲気の中で、その人らしい生活を大切にして、穏やかで楽しい暮らし支えること」を事業所独自の理念としてサービスを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念の共有化を図り、実践に結びつけるよう努めている。覚えやすい標語なので職員も普段より心に留め、ケアプランにも反映させて、日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏祭り、七夕、子供みこし、チャリティーコンサート、餅つきなどの町内会行事には積極的に参加している。また、専門学校の実習生受け入れや舞踊、バントワラーなど様々なボランティアを受け入れ、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義や目的を理解し、全職員で取り組み意見交換を行い、まとめている。理念の確認や日々のケアの振り返りの機会として捉え、課題の改善に向けて話し合い、サービスの質の向上につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎の定期的な開催に努めている。会議では、事業所は運営状況や外部評価結果を報告し、参加者からは質問、意見、要望、連絡事項などが出され、双方向的な会議運営を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	些細なことでも行政の担当者に相談してアドバイスを受れたり、情報を得るなど、密に連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、運営推進会議の議事録も行政からの出席者には直接手渡している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしぶりを写真やビデオに撮り、パソコンを用いて利用者個々に編集したものを、家族が来訪時に見ている。金銭出納帳は、家族が来訪時に直接確認している。	○	今後は、日々の暮らしぶりや行事の報告など、事業所全体の様子を家族に伝えるためにも、事業所便りの発行に向けて取り組むことを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や電話の際など、気軽に話し合える雰囲気づくりに心がけ、意見や不満を表せるように配慮しているが、現在苦情は持ち込まれていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は顔見知りの関係を保つためにも原則として行っていない。また、業務に差し支えない範囲で勤務や休みの要望を受け入れ、福利厚生部分も厚くするなど、離職を最小限に抑えるよう努力をしている。やむを得ず離職する場合は、本人や家族にきちんと説明をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や多くの職員が定期的に平等に外部研修会を受講できる機会を確保し、バックアップ体制を整えている。受講後は報告会を開催し、全職員での共有に努めている。また、自主的に資格を取得する職員には、管理者が相談相手となりアドバイスをするなど、スーパーバイザー的役割を果たしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟し、勉強会や研修会に積極的に参加して、同業者との交流を実践し情報交換している。今後は、職員の交換研修も行う方向で検討している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を開始する際、家族等が見学し、安心感が得られるよう努めている。今後は、必要に応じて体験利用ができる様に準備を進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段から家事、料理、風習を大切にすることなど利用者から学ぶ機会が多い。また、そのような場面が多く持てるように声がけ等に配慮している。利用者と職員は家族のように労いの言葉をかけ合い、共に学び支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の生活歴や日々の関わりの中から意向の確認に努めている。意思疎通の困難な利用者については、動作や表情から思いを把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者の意見や連絡ノートの記録を活かしてカンファレンスを行い、全職員で検討し、ケアプランをまとめて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施しており、本人や家族の意向や意見をカンファレンスで検討し、新たな介護計画に反映している。その後、介護計画の見直しは6ヶ月毎に行っている。利用者の状態が変化した時や変化の兆候が見られた場合などは、即座に対応策を検討し、適切な支援の実行に結び付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の状況や要望に応じて受診、買物、理美容院の送迎など可能な限り対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談しながら、適切な医療が受けられる体制を確保している。2週間毎にかかりつけ医の往診があり、緊急時にも対応が可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期ケア対応指針を定め、家族、医師、事業所間で話し合いを重ねて方針を共有している。また、運営推進会議でも重度化や終末期について話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングやカンファレンスで職員の意識統一を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。個人記録などの記載方法も明記することを極力避け、排泄に関して個人名は部屋番号で記入するなどの工夫や配慮をしている。個人情報の記録は事務室に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の開始時間は決めているが、起床や就寝など時間を区切った過ごし方はしていない。また、散歩や買物についても、一人ひとりの思いや体調に配慮し、なるべく希望に沿うよう柔軟な支援に努め、本人の望む暮らしの実現に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
w					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力に合わせて、調理の準備や後片付け等、食事の一連の流れを職員と一緒にいき、食事が楽しくできる様工夫している。職員は見守りながら同じテーブルで一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴を実施し、入浴前には体重測定やバイタルチェックを行い健康状態に配慮している。近隣の町から温泉を運んで来たり、入浴剤を日々変えるなど入浴を楽しむ工夫をしている。入浴を拒否する利用者には、タイミングを見計らい声がけをしてスムーズな入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが自発的に掃除や洗濯物をたたむなど、役割を見出せるよう支援している。また、利用者の誕生会を行ったり、お花見や外食など、楽しみごとの機会を多く取り入れ支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を尊重した外出、外気浴、地域行事への参加など、一人ひとりの状態に応じて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていないが、夜間は防犯上の理由から施錠している。居室に鍵をかけている利用者もあり、安全確認などの為、職員が開錠する了承を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間を想定した定期的な避難訓練を消防署や地域住民の協力を得て実施し、避難経路や避難場所、緊急時連絡網などの確認を行っている。また、消防計画などを作成している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを取り入れながら、栄養バランスに気を配り職員が献立を作成している。体調不良や機能低下が見られる利用者には随時医師に相談し、指導を受けて素早く適切な対応をしている。水分摂取量は記録し、日常の管理や医療機関への情報提供に役立っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は不快な音や臭いがなく、明るく清潔感がある。採光はレースのカーテンなどを利用して調節している。居間の装飾は節分やひな祭りなどに合わせて替え、季節感を採り入れ五感を刺激する工夫をし、居心地よく過ごせる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の協力を得て、馴染みの家具や調度品、仏壇、思い出の品、プレゼント品などを持ち込み、個々に応じた生活しやすい居室づくりを支援している。		

※  は、重点項目。